

令和4年8月豪雨を振り返って



秋田県北秋田地域振興局建設部 保全・環境課
河川保全班 技師 **高橋 魁**

1. はじめに

私は昨年度新規採用として秋田県庁に入庁し、北秋田地域振興局建設部に配属され、現在は河川保全班として主に河川の維持工事や、河川災害復旧工事、山瀬ダムの管理業務等を担当しています。北秋田管内について簡単に説明しますと、場所は秋田県北部に位置し、北秋田市、大館市、上小阿仁村の2市1村から構成され、管理面積は東京都の全面積を超える広さとなっています。

管内は一級河川米代川を本流とした多くの支川があり、その上流域には県管理の山瀬ダム、国管理の森吉山ダムを含む5つのダムが整備されています。ダムは四季によって姿を変える美しい絶景には毎度驚かされます。観光面では令和3年に世界文化遺産に登録された伊勢堂岱遺跡を有しており、縄文時代の貴重な遺跡を見ることができます。また、世界文化遺産登録にあわせて遺跡をモチーフとしたスイーツが販売されており、私のオススメはレストラン葡萄の樹で販売しているパフェです。秋田県にお越しの際はぜひ北秋田管内に足を運んでいただきたいと思います。私は県南の出身でまだまだ浅い魅力しか伝えられませんが、北秋田勤務中にここでは紹介できなかった魅力を発見していきたいです。

公務員になり1年が経ちますが、まだまだ分からないことだらけで日々勉強の毎日です。入庁して日が浅いですが、このような機会をいただけたのも何かの縁だと思い、拙いながら書かせていただきます。

2. 令和4年8月豪雨

令和4年8月豪雨災害は、下記の長期に渡る豪雨で引き起こされました。

8月2日～3日豪雨は、鷹巣観測所で最大時間雨量が67.0mm(観測史上最大)、陣場観測所で最大24時間雨量が173.5mm(観測史上最大)でした。8月9日～10日豪雨は、大館観測所で最大時間雨量33.5mm(観

測史上最大)、鷹巣観測所で最大24時間雨量159.0mmでした。8月12日～13日豪雨は阿仁合観測所で最大時間雨量42.0mm、陣場観測所で最大24時間雨量144.5mmとなりました。

管内で氾濫した河川は、8月3日に下内川、糠沢川(うち管内で21棟の床下浸水、51棟の床上浸水)8月10日に羽根山沢川、8月13日に引欠川、小阿仁川、仏社川、五反沢川(うち管内で床上浸水27棟、床下浸水96棟)となりました。

全県の公共土木施設の総被害は389箇所、査定決定額は11,737百万円であり、北秋田管内は件数で全県の48%、査定決定額で46%となっています。

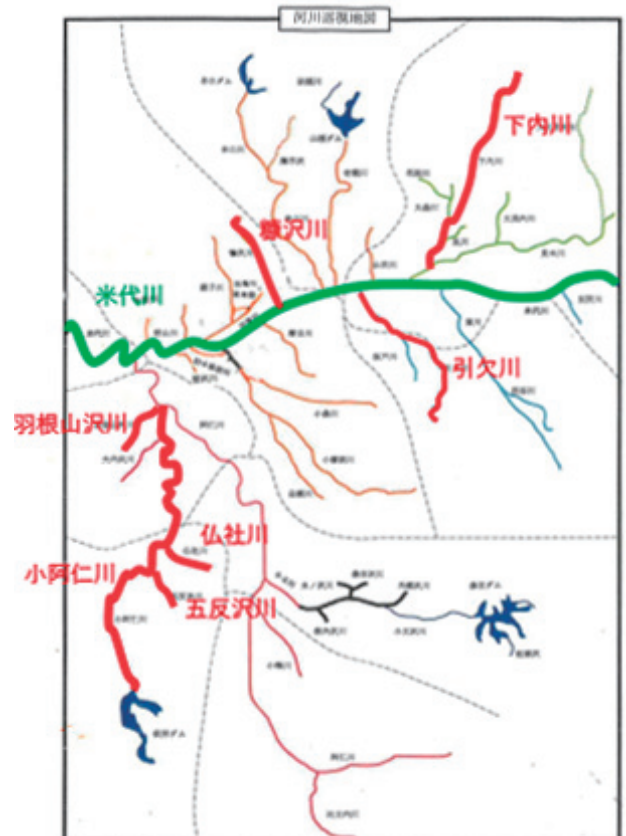


図-1 北秋田管内の河川一覧

表-1 令和4年豪雨災害概要（北秋田地域振興局 管内）

項目・種別	河川		道路		砂防		急傾斜		合計	
	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額
県	88	3,654,517	20	315,020	12	334,679	1	53,362	121	4,357,578
大館市	29	539,134	8	116,789					37	655,923
北秋田市	6	149,731	16	226,572					22	376,303
上小阿仁村			5	53,161					5	53,161
合計	123	4,343,382	49	711,542	12	334,679	1	53,362	185	5,442,965

このように甚大な被害をもたらした令和4年豪雨災害。8月3日豪雨の朝、私は天気予報を見ながら今日は雨が強いからダムで待機かなと思いながら出勤しました。その日は山瀬ダムで洪水待機をし、午後から雨があがったので事務所に戻ると、部内は騒然としていて、ホワイトボードで埋め尽くされていた状況を覚えています。下内川が破堤し、ドローンの映像を見ながら川の脅威を目の当たりにしました。その日を境に住民からの被災箇所の復旧に関する要望が殺到し一日中電話対応とその現場に向かう日々を繰り返していました。それから約1週間後、天気予報をみるとまた日雨量100mmクラスの雨が数日降る予報になっていて唖然としました。8月3日と、8月9日～10日、12日～13日の豪雨は降る地点が違ったことから、北秋田管内全域に被害が拡大しました。雨がやみ、水位が下がったところから毎日現場調査が始まりました。この頃は1週間前の天気が嘘のようにカラッと晴れ、やっと夏がきたのかと内心、心を躍らせていました。今思うとまだまだ学生気分が抜けていなかったと思います。しかし、待っていたのは炎天下での大量の現場調査でした。広い

範囲をくまなく調査するため、人手が足りず部内の職員を総動員でたくさんの班を作り、さらには他管内から応援職員にきてもらいなんとか被害の全容を把握することができました。今思えば、当時やったことがある業務は草刈り、伐木業務のみで先輩たちと現場調査をしながら構造物の話聞くことが日々の勉強になっていたと思います。帰ってからは現場の写真整理を積極的に行いました。そんな中、災害の目論見書を入力する作業をやらせてもらった際は河川の名前を間違ったり、数値が違ったりなど散々な結果になったのはいい思い出です。

3. グーグルマイマップの活用について

私たちは今回の災害調査にあたり被災箇所をグーグルマップにプロットすることにしました。グーグルマップにはマイマップという機能があり、グーグルマップに線やポイントを描写して地図を共有することができます。写真-2は実際に私たちが作成したマイマップです。赤が被災箇所、黄色が進入路(仮設道路)という使い分けをしています。河川災害の場合、道路から見えにくい場所での被災も多くあり



写真-1 一級河川 下内川 破堤箇所



写真-2 グーグルマイマップの利用

ますが一度マイマップにプロットするとナビを利用すれば誰でも被災箇所にとどり着くことができます。こうして作成したマイマップはグーグルアカウントを共有することで誰でも閲覧・編集が可能であり、職員同士だけでなく設計コンサルタントとも共有が可能です。先にも述べたように今回の災害では班員だけでは人手が足りず多くの応援職員に来ていただきました。当然ではありますが応援職員は通常業務の間を縫って来ていただいております、人により応援期間は異なり人の入れ替わりも激しかったです。それもあって現地に行ったことがある職員がいなくても、マイマップを利用すればとどり着くことができ、スムーズに現場調査をすることができました。

マイマップを活用したことにより被災箇所への移動、被害報告、申請箇所図の作成等で大幅に時間短縮出来たと感じました。他にも設計コンサルタントや施工業者を案内する際、あらかじめマイマップを共有しておくことで、グーグルマップ上で現地周辺状況を確認してもらうこともできました。

4. 災害査定について

災害現場の箇所数が決まると、いよいよ災害査定へ向けての準備が始まりました。印象的だったのが、設計コンサルタントからあがってくるA1の図面です。初めてみる大きな図面には、みっちり数式と図形で埋め尽くされていて当時は不安でいっぱいでした。よく分からない記号や数量計算、そして査定設計書と常に頭に？マークが浮かんでいました。それでも分からないなりに先輩方の作った設計書を真似し、分からないところは執拗に先輩方に質問し、災害手帳とにらめっこしていた日々は今思うと貴重な経験だったと感じています。習うより慣れよとはよくいうものです。苦戦する日々が続く中、あっという間に1次査定となりました。あらかじめ査定練習はしていたものの実際、本番は緊張しすぎて何を話したかあまり覚えていません。それでも先輩方のフォローもあって2箇所の申請を無事終えることができました。先輩方の申請を見ていると、起終点の決め方や工事用道路の説明で、図面だけではなく写真も使ってより視覚的に表現する大切さを学びました。

1次査定を終えてからは毎週のように査定に追われる日々が続きました。特につらかったことが災害査定を受けながら、翌週、翌々週の災害査定準備をしなければならなかったことです。常に追われる日々を続けていると精神的にも疲労が蓄積し、だん

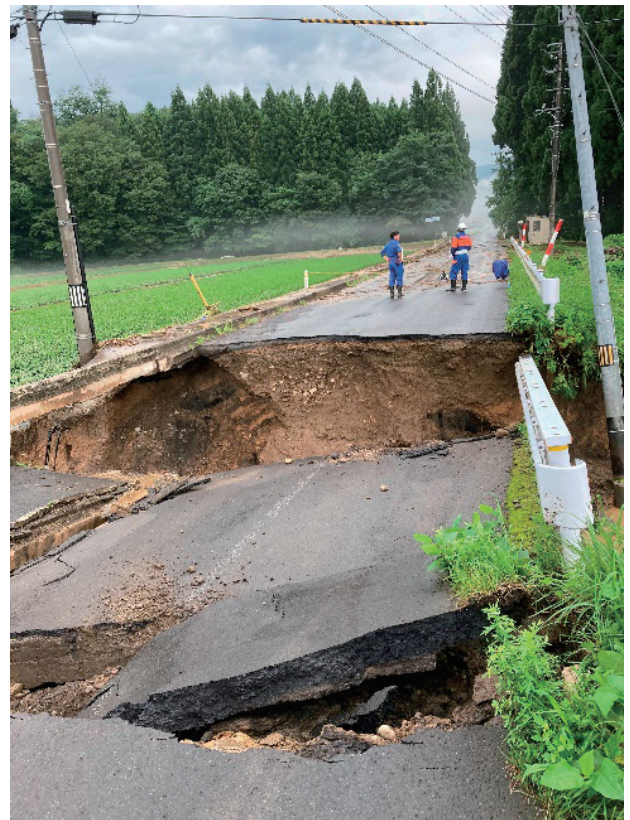


写真-3 主要地方道 比内大葛鹿角線

だんと伸びていく残業時間に心がすさんでいく感覚がありました。それでも班の先輩方が自分よりも遙かに多い業務量でも弱音1つ吐かず、優しく私をカバーしてくれたことでもう少し頑張ろうという気持ちになりました。

また、最初はなにも出来なかった私も査定を重ねるごとにできることが増え、設計書を一人で作ることができたときは成長を感じることができました。

5. 悲劇の流行病について

月日は流れ4次査定くらいになると、体もだいぶ査定モードとなり残業にも慣れていきました。また季節は秋から冬へと変わっていく様子を感じられ、気温も日に日に下がっていきました。そんな中、世間を騒がせていたのが流行病である新型コロナウイルス感染症です。これに雇ったら非常にまずいと思いながら連日流れるニュースを見ていました。そのような中、5次査定準備の最中に悲劇は起こりました。その日は、午前1時過ぎに帰宅後、お風呂上がりにこれまでに経験したことのない寒気に襲われました。内心まずいと思いながらその日は床に就きましたが、朝を迎えると体を起こすことができませんでした。病院へ行くと案の定新型コロナウイルスの

陽性と診断されました。さらに2日後、隣の席の先輩方もバタバタと新型コロナウイルスの陽性となっていて、5次査定を迎えるのが難しい状況だったと聞いています。この時、私は罪悪感と申し訳なさでいっぱいでした。それでも周囲からの励ましの言葉や、応援職員総動員で5次査定を無事終えることができた聞き私の罪悪感は少し薄れました。

落ち込んでいる暇もなく病み上がりから6次査定、7次査定の準備に取りかかりました。6次査定以降で変わったことがあります。それは、雪が本格的に降り始め、現場にいてもどこが被災しているか分からない状態になったということです。そこで工夫したことが写真です。何回も査定を受けていると査定官、立会官にどこを詳しく聞かれるかおおよそ分かってくるもので、聞かれそうな箇所はA3の写真としてたくさん持っていきました。また、口答のみで説明するのではなく災害手帳を使って先輩方が説明していたので、私も参考にして災害手帳にたくさん付箋を貼っていました。後日談として、対策していたところは全く聞かれずにノーマークだった基本的なところを間違えて説明してしまったのはほろ苦い経験です。なんだかんだありましたが、無事7次査定まで終えることができ、北秋田管内では計185件の災害査定を終えることができました。

6. おわりに

公務員初年度に経験した令和4年豪雨災害について主に書かせていただきました。拙い文章で大変恐縮ですが、この1年間で経験してきたことを振り返るいい機会となり、「月刊防災」への寄稿依頼をいただけたことに関して感謝の意を示したいと思います。

公務員になって1年が経ち、学生のころとは比べものにならないほどインパクトのある経験をたくさんしたと思います。そのおかげで災害に対する意識も大きく変わりました。学生の頃は、「すごい雨が降っているな」程度の感覚でしたが、対応する側になると業務の多さ、復旧までの様々な工程、災害の大変さを改めて感じました。時折流れる豪雨のニュースを見ると、胸が締め付けられます。

これからも様々な災害を経験するかもしれませんが、1年目に経験したことを生かして秋田県、地域住民の方々にとって安心した暮らしを提供できるように頑張りたいです。また、災害業務は持久戦だと感じました。頑張るところはとことん頑張り、休むところはとことん休むという先輩の言葉を忘れずメリハリのある仕事をしていきたいです。

最後になりますが、各地で災害業務をされている皆様に対しても無事に復旧作業が終えられることを微力ながら祈念しております。最後までお付き合いいただきありがとうございました。



写真-4 レストラン葡萄の樹のパフェ